

第19回 成田空港地区貨物施設見学会 (2023年度)開催

JAFANA-BIAC 共同研究会では10月24日、「第19回 成田空港地区貨物施設見学会(2023年度)」を開催しました。同研究会は毎年、航空貨物の梱包の重要性について、実際のフローを中心に、荷主企業を対象に見学会を開催しております。

今年度は27名が参加し、実際の輸出貨物のフローに沿って、近鉄エクスプレスの成田空港外施設を見学し、日本貨物航空(NCA)による座学の後、成田空港南部地区のNCA輸出入上屋にて実際の貨物取扱いの説明が行われました。最後にNCA格納庫にてB747-8F(貨物専用機)の見学を行いました。近鉄エクスプレスでは、貨物の受託から検尺・検量、ラベル貼付けや航空機搭載用パレット(ULD)への組付け作業迄の一連の流れを見学、NCAによる座学では、上屋の施設や荷捌き等とB747-8Fについての説明がありました。見学会の最後には、日本航空の成田オペレーションセンターにてQ&Aの時間が設けられ、航空運賃の動向、2024年問題による航空輸送への影響等活発な質問がなされました。

(JAFANA-BIAC 共同研究会)



社会悪物品等密輸防止キャンペーン 講演会開催

当協会は、31年前の1992年に大蔵省関税局(当時)と「密輸防止に関する覚書」を締結し、毎年10月を取組強化月間と定め「社会悪物品等密輸防止キャンペーン」を実施してまいりました。2019年には、従来の不正薬物や銃器に加え、テロ関連物資と金地金等が追加され、内容も強化されてきました。キャンペーン期間中は、ポスターやパンフレットによる啓蒙活動を行い、全国各地の空港で税関

にご協力いただき、講演会等も開催しております。今年度は、会員全社に対するポスターの配布を実施し、東京税関の協力により10月13日(金)東京税関本関が所在する港湾合同庁舎大会議室において、2013年以来10年振りとなります麻薬探知犬によるデモンストレーションとともに、東京税関調査部より「社会悪物品の密輸事例等」、「経済安保関連」についてご講演いただきました。会場の関

係によりオンラインによる参加はかきませんでした。53名の皆さんに会場で講演を聴講いただきました。本年6月までの統計によれば、東京税関管内での摘発件数は昨年同期比151%に及んでおり、今後とも、より一層税関への緊密な協力を心がけていただきたいと思います。

(通関業務・情報合同委員会、
国際業務委員会)



CBTA プロバイダーとして 航空輸送の安全確保に貢献します

～危険物講習7.1コース及び7.2コースを顧客荷主にご紹介ください～

JAFAがIATA認定CBTAプロバイダーとして「IATA認定危険物資格取得講習会」を開始してから半年余りが経過しました。この間、多くの会員の皆さまに受講いただき、7.1～7.3コースの延べ受講者は9月末現在378名となりました。会員の皆さまのご協力に深く感謝申し上げます。

ICAO技術指針では、危険物を航空輸送する荷送人の責任として、危険物の正しい識別・分類、包装要件に合致する梱包、正しい申告書等の作成、教育訓練の実施等が求められています。その後のICAO

技術指針の改訂により、荷送人担当者に対する教育訓練要件が変更されたことから、IATA危険物規則が大幅に改訂され、各国のIATA認定CBTAセンターにより、危険物輸送に係わる従業員に対する能力要件に基づく教育訓練が開始されました。

JAFAでは、IATA代理店資格の要件である7.3コースに加え、荷主や梱包事業者などの「危険物貨物を分類・準備する従業員」が修得するべき専門的な資格である7.1コース、更に、国際・国内の会員の皆さまや荷主等の皆さまに広く受講して

いただける基礎的な知識修得を目指す7.2コースを開講しています。

航空輸送の安全確保のためには、危険物輸送に係わる関係者の協力が必要不可欠です。国際・国内にかかわらず会員の皆さまにおかれましては、日々接する顧客荷主に対し、専門的な7.1資格取得コースや、基礎的な知識修得を目指す7.2コースをご紹介くださいますようお願い申し上げます。

お問い合わせはJAFA事務局までご連絡ください。

(JAFA / CBTA Provider)

無申告危険物「ゼロ」へ

「無申告危険物」とは、法令により運送人への通知・申告が定められているにもかかわらず、荷主から本来必要となる適正な通知・申告がないまま、一般貨物として航空会社やフォワーダーへ引き渡される航空危険物のことです。そして、無申告危険物の発生原因の多くが荷主の知識不足によると言われています。

では、会員会社の皆さまの取組状況は如何でしょうか。「隠れた危険物を発見するための教育訓練」は受講していますか? 「荷主に対する啓蒙活動」は実施していますか? 電子機器にはリチウム電池、食品にはドライアイス、

キャンプ用品には燃料、引越荷物にはスプレー缶が入っている可能性があります。国内部会では、毎年 3 月と 11 月を適正に航空危険物を取り扱う強化月間と定め、

危険物をご出荷の際は、事前申告が必要となります
ひとたび事故が発生すると大惨事につながる旅客機には、様々な受託制限があります。以下に危険物の分類と主な危険物の例を紹介しますが、詳細につきましては、当社にお問い合わせをお願いします。

火薬類	花火 炸薬類 爆薬	・クラッカー ・火薬 ・爆竹 ・煙草	・爆薬 ・爆発物
引火性液体	・オイルライター ・化粧品 ・ペイント ・ワックス ・ニス ・アルコール性飲料 (70度以上のもの)	・ライター類 ・化粧品 ・ペイント ・ニス ・ワックス ・アルコール性飲料 (70度以上のもの)	・ペイント類 ・化粧品 ・化粧品 ・化粧品 ・化粧品 ・化粧品
高圧ガス	・ガス缶 ・ガスボンベ ・ガスシリンダー ・ガスバルブ	・ガス缶 ・ガスボンベ ・ガスシリンダー ・ガスバルブ	・ガス缶 ・ガスボンベ ・ガスシリンダー ・ガスバルブ
酸化性物質類	・酸素発生剤 ・漂白剤 ・漂白剤 ・漂白剤	・酸素発生剤 ・漂白剤 ・漂白剤 ・漂白剤	・酸素発生剤 ・漂白剤 ・漂白剤 ・漂白剤
可燃性物質類	・マッチ (小型のもの)	・マッチ (小型のもの)	・炎
腐食性物質	・漂白剤 ・アルカリ剤 ・漂白剤 ・漂白剤	・漂白剤 ・アルカリ剤 ・漂白剤 ・漂白剤	・漂白剤 ・アルカリ剤 ・漂白剤 ・漂白剤
毒物類	・殺虫剤 ・殺菌剤 ・殺菌剤 ・殺菌剤	・殺虫剤 ・殺菌剤 ・殺菌剤 ・殺菌剤	・殺虫剤 ・殺菌剤 ・殺菌剤 ・殺菌剤
放射性物質等	・放射線計測器 ・放射線計測器 ・放射線計測器	・放射線計測器 ・放射線計測器 ・放射線計測器	・放射線計測器 ・放射線計測器 ・放射線計測器
その他の有害物	・硝子 ・リチウム電池 ・硝子 ・リチウム電池	・硝子 ・リチウム電池 ・硝子 ・リチウム電池	・硝子 ・リチウム電池 ・硝子 ・リチウム電池

お問い合わせ先
JAJFA 一般社団法人 航空貨物運送協会

航空会社とも連携し「無申告危険物搭載防止キャンペーン」を実施しています。この機会に、航空危険物に係る従業員教育や荷主への啓蒙活動について、再度確認

されてはいかがでしょうか。危険物教育や荷主啓蒙ツールについては JAJFA 事務局にお問合せください。(国内業務・教育委員会、事務局)

矢野元副会長 国土交通大臣表彰受賞

この度、当協会の矢野俊一元副会長(元 郵船ロジスティクス(株)代表取締役会長)が、多年にわたり航空関係事業の振興に努め斯界の発展に寄与した功績により、国土交通大臣表彰を受賞しました。

矢野元副会長は、2006 年 6 月から 2014 年 6 月までの 8 年間、副会長兼総合部会長として、国際・国際宅配・国内の各業界の発展に大きく貢献され、特に 2008 年のリーマンショックや 2011 年の東日本大震災からの復興と発展にご尽力いただきました。



表彰式は、空の日にあたる 2023 年 9 月 20 日、国土交通省 10 階大会議室にて執り行われ、事業功労者である矢野元副会長をはじめ、航空会社関係者など航空関係功労者が表彰されました。

航空関係功労者大臣表彰に関する詳細は、以下の国土交通省ホームページでご確認ください。

○国土交通省ホームページ(報道・広報)

令和 5 年「空の日」航空関係功労者大臣表彰について
https://www.mlit.go.jp/report/press/kanbo03_hh_000359.html

令和 5 年「空の日」航空関係功労者大臣表彰について(プレスリリース)

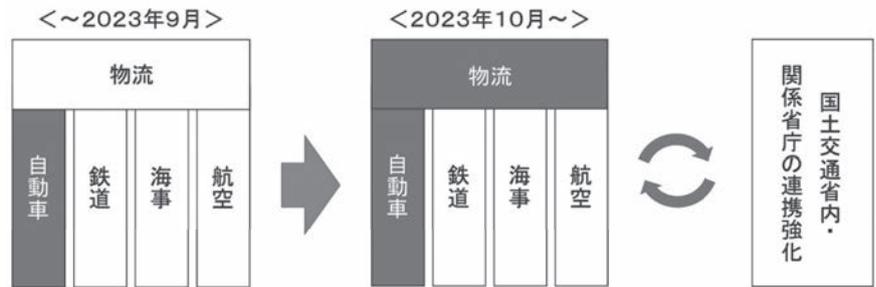
<https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001630589.pdf>
令和 5 年(第 71 回)「空の日」航空関係功労者大臣表彰受賞者名簿

<https://www.mlit.go.jp/report/press/content/001630590.pdf>

「物流・自動車局」がスタートしました

航空フォワーダー事業を始めとする貨物利用運送事業については、従来、国土交通本省の総合政策局物流部門が事業所管部署となっていました。

国土交通省においては、「2024 年問題」等の新たな課題への対応を効果的に推進する観点から、今般、本省組織の再編が行われ、2023 年 10 月 1 日、従来の総合政策局物流部門と自動車局を統合した「物流・自動車局」がスタートしました。



新組織体制の下では、貨物利用運送事業の所管部署は、同局の貨物流通事業課 貨物流通経営戦略室（中央合同庁舎 3 号館 8 階）となりましたので、ご注意ください。

JAF A セミナー 「新しい成田空港」構想(新貨物地区)について

8 月 31 日 (木)、JAF A セミナールームに成田国際空港 (NAA) 貨物営業部マネージャー横塚正文氏をお招きし、「新しい成田空港」構想(新貨物地区)についてのセミナーを開催しました。

セミナールーム 7 名、オンライン参加 158 名と非常に多くの方々にご参加をいただき、今後の成田空港の展開に対する関心の高さが窺えました。

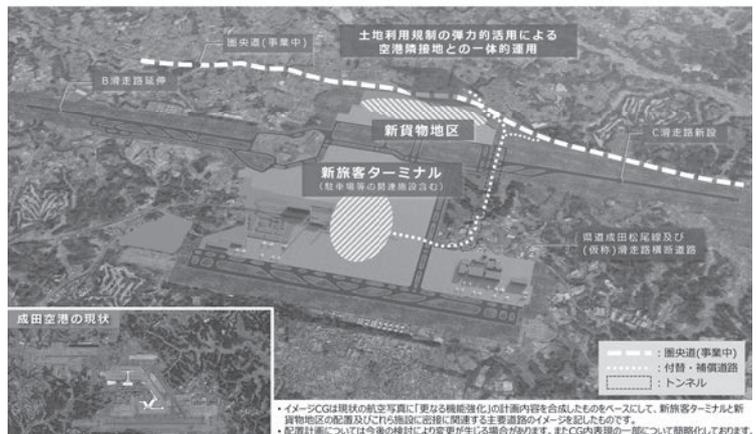
アンケートの結果でも今後の進捗状況に関する情報提供のご要望が多数寄せられました。

政策委員会は、今後も皆様の関心が高いテーマのセミナーを企画してまいります。

(政策委員会)

『新しい成田空港』構想 将来配置イメージ

※今後の検討により変更が生じる場合があります。



NAA - NARITA INTERNATIONAL AIRPORT CORPORATION

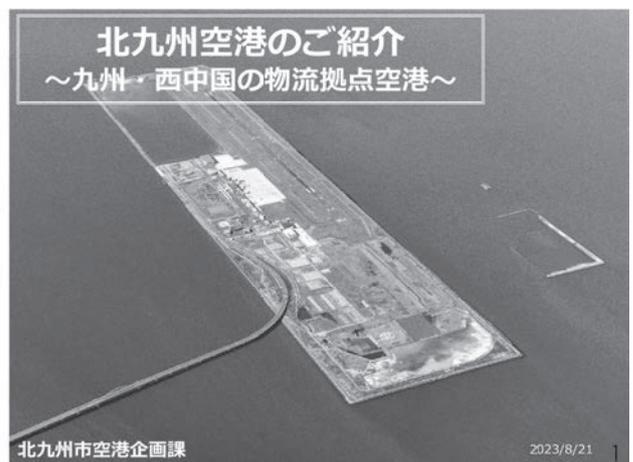
「北九州空港の貨物拠点化に向けた取組みについて」 説明会開催

8 月 21 日 (月)、福岡県・北九州市・北九州エアターミナルの各御担当者とセミナールームをオンラインで結び、「北九州空港の貨物拠点化に向けた取組みについて」説明会を開催しました。

国土交通省は本年 2 月、北九州空港の滑走路を 3000m へ延長する事業に着手することを決定しており、24 時間空港として、今後、九州・西中国をカバーする貨物拠点として期待されますが、説明会では構想概要から支援制度の内容まで説明されました。

セミナールーム・オンラインを合わせ 100 名を超える皆様に参加いただきました。

(空港対策委員会)



2023年度 航空保安教育訓練

国内航空貨物危険物講習会を、2022 年 10月航空貨物運送協会 (JAJA) は、国土交通省航空局より航空保安教育訓練支援期間として認定され、2015 年より RA (特定航空貨物利用運送事業者・特定航空運送代理業者) を対象として、毎年約 5 回の

航空保安教育訓練の専門教育を実施しております。
2023 年度については、10月までに 東京・成田・大阪にて教育訓練を開催しており、今後、東京・福岡・名古屋での開催が予定されております。

RA 各社が実施しなければならない、社員や業務委託先を対象とした航空保安教育訓練の負担を軽減していただくために是非ともご活用ください。

(保安委員会)

委員会等活動報告

7月 3日	国際教育委員会	第2回委員会開催、国際基礎講習会について
4日～6日	国際教育委員会	IATA 認定航空危険物講習会 (CBTA) 7.1コース開催 (東京・大阪地区) (9名合格)
7日	国際教育委員会	CBTA 7.2コース オンライン開催 (10名合格)
	政策委員会	JAJA セミナー準備状況確認、航空貨物取扱実績の仕向地追加について
10日	国内業務・教育委員会	基礎講習会の反省、無申告危険物搭載防止への取組検討
11～13日	国際教育委員会	CBTA 7.3 イニシャルコース開催 (東京・大阪地区) (20名合格)
18～19日	国際教育委員会	CBTA 7.3 リカレントコース開催 (東京・大阪地区) (5名合格)
20日	広報委員会	JAJA ニュース127 (夏) 号最終編集会議
21日	通関業務・情報合同委員会	「社会悪物品等密輸防止キャンペーン」、国際航空貨物基礎講習会 (秋期) について
22日～8月1日	国際教育委員会	IATA ディプロマ認定試験・基礎コース 7月セッション実施 (90名合格)
24日	国際交流委員会	第4回委員会開催、6月30日開催の FIATA GM について
25日	国際交流委員会	FAPAA オンラインミーティング参加
25日	国際宅配便業務委員会	第2回委員会開催、2024年度活動テーマについて
28日	国内業務・教育委員会	JAL/ANA による保安書類電子化に関する説明と検討
31日	国際業務委員会	第3回委員会開催、2024年度活動テーマ-デジタル化推進について
8月 1日	広報委員会	JAJA ニュース127 (夏) 号発行
8日～10日	国際教育委員会	CBTA 7.3 イニシャルコース開催 (東京地区) (14名合格)
9日	広報委員会	今後の広報活動の在り方、方法、HP 等について検討
21日	空港対策委員会	セミナー「北九州空港の貨物拠点化に向けた取組みについて」開催
22・23・29日	国際教育委員会	IATA ディプロマ認定試験・事前講習会開催 (128名参加)
23日	通関業務・情報合同委員会	「社会悪物品等密輸防止キャンペーン」開催内容の検討
24日	JAJA-BIAC 共同研究会	委員長互選、賀詞交歓会・空港施設見学会・航空危険物ベシク講習会他
25日	政策委員会	2023年度 JAJA セミナーについて、航空貨物取扱実績の仕向地追加について
30日	保安委員会	2023年度航空保安教育訓練 教材・カリキュラム・他の検討
31日	政策委員会	JAJA セミナー 「新しい成田空港構想」(新貨物地区) について 開催
9月 4日	国際交流委員会	第5回委員会開催、FIATA World Congress 参加について
5日～7日	国際教育委員会	IATA 認定航空危険物講習会 (CBTA) 7.1コース開催 (東京・大阪地区) (18名合格)
8日	国際教育委員会	CBTA 7.2コース オンライン開催 (4名合格)
8日	国内業務・教育委員会	国内航空危険物講習の代替として CBTA7.2コースを受講 (188名)
12～14日	国際教育委員会	CBTA 7.3 イニシャルコース開催 (東京・大阪地区) (34名合格)
19～20日	国際教育委員会	CBTA 7.3 リカレントコース開催 (東京・大阪地区) (15名合格)
22日	国内業務・教育委員会	危険物講習、無申告危険物搭載防止キャンペーン、下期活動計画
22日～10月1日	国際教育委員会	IATA ディプロマ認定試験・基礎コース 9月セッション実施 (108名合格)
26日	国際宅配便業務委員会	第3回委員会開催、2024年度活動テーマについて
28日	国際業務委員会	第4回委員会開催、2024年度活動テーマ-デジタル化推進について
29日	広報委員会	JAJA ニュース128 (秋) 号編集会議、今後の広報委員会の活動の検討

2023年10月3日~6日 FIATA World Congress 2023 開催

FIATA World Congress 2023(FWC)が、ベルギー・ブリュッセルで開催され、国際交流委員会とJAJFA事務局より各1名が参加しました。COVID-19の影響により、当初予定から2年遅れでの開催でしたが、参加者650名(80か国)の大半が現地参加する盛況な大会となりました。

今回の大会のテーマは‘The Changing Climate of Logistics’であり、ロジスティクスの持続可能性と気候変動や各種世界情勢への対応が議論されました。

10月4日のPlenary Sessionでは今回のテーマである、The Changing Climate of Logistics’に対する現状の問題点や今後の展望がパネラーにより討議

されました。午後に開催されたFIATA Region Asia Pacific (RAP)では今後、FIATAが進めているデジタルBLやICAOとの協業で進めている危険品トレーニングについての活動報告・活発な議論が展開されました。

10月5日は、各分野の専門家を招いてグリーンロジスティクス、デジタル化、リスクマネジメント、人材育成といったテーマの下、QRコードを利用し、リアルタイムに聴衆参加型の方式で、数多くのパネルディスカッションが開催されました。

今年は、2年に一度のFIATA役員改選期であったため、最終日の10月6日、役員改選総会(Electoral General Meeting)が開催



され、トルコのTurgut ERKESKIN氏(左下写真・右)が新会長として、Thomas SIM(シンガポール)、Jens ROEMER(ベルギー)、Marc BIBEAU(カナダ)の3氏が副会長として、それぞれ選出されました。

2024年のFWCはパナマで、2025年はベトナムのハノイで開催が予定されています。

(国際交流委員会)

